

令和5年度 静岡大成中学校 学校評価書

＜評価基準(達成度)＞ A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 生徒の自律を支援する。	基本は「教える」のではなく「支援する」こととし、生徒の自主性を尊重する。	A	日頃から生徒とよく会話し、信頼づくりに努めた。注意が必要な生徒は全員の目で見守った。	A	今年度より、全学年でチーム担任制を導入。生徒は、話しやすい教員に相談ができるなどの利点があった。教員もチームで協力ができたが、一人が業務を請け負いすぎないように、職員相互の協力が必要となってくる。今年度の経験を活かし、来年度につなげていければと思う。
	2. 率先垂範を実行する。	「目指す生徒」を教師が自ら実行する。生徒と一緒に汗を流す。	B	教員が生徒の模範となり、生徒と一緒に活動した。	B	
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	できない理由を探す前にやってみる。ぶれないこと、あきらめないこと。	A	教員一人ひとりがやるべきことを自覚し、生徒のために学校のために努力した。	A	
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	私学だからこそできること、やるべきことを考え実行する。保護者と良いリレーションを築く。	A	各自しっかりと業務の遂行に努めた。保護者との連携を大切に、迅速に情報伝達を行った。	B	
	5. チームとしての教員集団である。	常にコミュニケーションを図る。対話により相互理解と問題の解決を図る。	B	教員同士が会話を大切に、情報共有に努めた。年度当初は初めてのチーム担任制で連携がうまく取れず戸惑った。	B	
学習指導	『対話的な学びの場の創造』 ～生徒それぞれの持つ探究の種が芽吹くことを支援し、生徒が自ら学べる場を創る	対話を通じた主体的で学びの深まる授業の探究。対話を通じた生徒と教師によるホームルームの探究。	B	より一層「対話する」ことを通して授業の学びが深まるような授業展開の工夫をしたい。	B	来年度は、SEELearning(社会的・情動的・倫理的知性の学び)の取り組みを実施、対話を通じた主体的な深い学びに期待している。
進路指導	『対話を通じた生徒主体の進路実現』 ～自分の人生について主体的に考え、自分の理想の進路を切り拓く生徒を育てる	本校の新たな売りとなる「ブランド化」された進路指導計画の確立。生徒のキャリアデザインにおける支援。	A	目標をしっかりと持ち、進路意識が高い生徒が多い。面接指導などを通して中学全教員で生徒の進路を後押ししてきた。また、落ち着いた学習環境の維持に努めた。	B	引き続き、希望する進路に進めるようなサポートをお願いしたい。
生徒指導	『対話を通じた一人ひとりに適切な支援や指導』 ～生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と教職員といった協働支援を目指す	あいさつ,校内外美化,他者尊重,安全安心な学校づくり,自立した生徒会活動の支援,リーダーの育成,時代にあった校則づくり	B	一人ひとりはとも素直な生徒が多いが、SNSの利用でのトラブル、他者への思いやりにかける行動が多い。注意が浸透しない現状をどのように打開していくのかが大きな課題である。	B	SNSの問題は近年の課題であると思う。よい打開策が見つかるとうい。何か協力できることがあればしていきたい。
ICT 技術	『ICT スキルの向上』 ～生徒と教師がともに切磋琢磨し、ICT スキルの向上を図る	ICT に関連する自己管理能力の向上。情報セキュリティに関する意識レベルの向上。	B	コロナやインフルエンザ、不登校の生徒へのリモート授業が年間を通して行われた。ICT 機器の扱いが不得手な教員もいるため、協力しながら対処した。	B	導入から3年経ち、全校生徒が授業で iPad を使用して学習ができています。
当事者意識による組織づくり	・対話によるコミュニケーションの充実	チーム担任制の実施、報告・連絡・相談の実行	B	教員はチームで相談対応できる安心感があった。保護者は誰に相談したらいいのかがはっきりせず戸惑いもあったようだ。	B	会議時間の短縮や、定時退勤日の設定などが進む一方、中学独自の業務負担の見直しは進められたらよい。 生徒の学びやすい環境づくりのため、設備備品の充実は大切である。
	・業務内容と勤務の改善	実のある円滑な会議の実施、時間外勤務時間の短縮	B	スターライトに対する勤務時間超過へのクレームはほとんどない。日直業務、昼食指導、トワイライト監督など中学独自の業務に負担感を感じている教員が多いため改善が必要である。	B	
	・法令や服務規律の遵守	体罰や暴言等の撲滅、規則・規程・約束事項等の遵守	A	全員が遵守した。	A	
	・社会意識の向上	保護者対応に関するスキルの向上、地域交流や広報活動の推進	B	チーム担任になり保護者対応には安心感があった。教員間で協力し得意不得意をうまくカバーしていた。 来年は全員で広報活動を行い生徒募集に貢献していきたい。	B	
	・教育環境の整備	整理整頓の徹底と掃除の実施、経費節減(節約・節電)意識の向上	B	教室の整理整頓は意識して実践させた。中学校舎内の設備備品の劣化が目立ってきているため修繕をしたい。	B	